

「エッセイコンテスト2019」作品募集中 副賞に約1週間の海外研修



2016年度の中学生の部の入賞者はモンゴルで第4火力発電所を視察した。

●JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019

応募期間：2019年6月7日(金)～2019年9月11日(水)



JICAは今年で58回目となる「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2019」を開催。国際協力について、若者ならではの体験や思いをつづった作品を募集している。

同コンテストは、国際社会が直面している課題を多くの中高生に知ってもらい、行動するきっかけをつかんでもらおうというもの。今年度は「よりよい世界の未来を目指して〜私たちがから始まる一歩〜」がテーマ。審査員長は、中学生の部は教育評論家の尾木直樹さん、高校生は女優でエッセイストの星野知子さん。名誉審査員長は、「JHP・学校をつくる会」の代表理事を務める、脚本家の小山内美江子さんだ。最優秀賞、優秀賞の受賞者には、副賞として約1週間の海外研修の機会が贈られる。青年海外協力隊の活動現場やJICAプロジェクトの現場を回り、途上国の暮らしや国際協力の取り組みなどを視察する。応募の締め切りは9月11日(当日消印有効)。詳細は「JICA地球ひろば」のウェブサイトまで。

ニュース深掘り! 言葉にすることが、自分と世界を動かす第一歩

長年の実施によって教育分野からの信頼も高まっており、入賞実績が大学の推薦入試で高く評価された受賞者や、作品が道徳の教科書に採用された例もあります。子どもたちが世界の現状を「自分ごと」としてとらえ自分にできることを考えることは、来年度から適用される新学習指導要領で掲げられた「持続可能な社会の創り手」の育成にも貢献するものと思えます。

毎年、多種多様な切り口で書かれた作品が届きます。身近な環境問題や外国人クンスメイトとの友情だったり、あるいは持続可能な街造りなど、世界の現状や課題に対し、自分でできる身近なことから、「行動する大切さ」を書いている作品が多いのも特徴です。大いなる探求心をもってエッセイを書くことで、世界の課題の解決に向けた第一歩を踏み出してほしいと思います。

このコンテストは1962年に「海外移住懸賞作文」という名前で始まり、世界の問題に目を向け、考え、行動するきっかけを、長年にわたって多くの中学生・高校生に提供してきました。過去の受賞者には、外務省や国際機関・国際協力団体の職員や、医師・通訳など、世界の舞台で活躍するようになった方も数多くいらっしゃいます。

広報室
藤田美和
ふじた・みわ

人事部、秘書室、青年海外協力隊事務局等を経て、2014年より広報室地球ひろば推進課で開発教育支援事業に携わる。



JICA HEADLINE NEWS

- 7月11日 | ▶ **インドネシア初。大規模下水処理施設の導入を支援**
円借款貸付契約に調印。生活・衛生環境の改善と水環境保全に貢献。
- 7月8日 | ▶ **ネパール地震から4年。住民参加の震災復興を支援**
災害発生前よりも災害に強い社会へ。技術協力プロジェクト討議議事録に署名。
- 7月4日 | ▶ **ギニア、老朽化したスンバ橋の架け替えに無償資金協力**
贈与契約を締結。幹線道路における、交通・物流の改善を目指す。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>